



令和2年度 第1回 総合教育会議

会 議 録

八幡市教育委員会

|         |                                |                  |  |
|---------|--------------------------------|------------------|--|
| 開 催 日 時 | 令和3年3月19日（金曜日） 午後3時30分～午後5時10分 |                  |  |
| 場 所     | 八幡市文化センター3階 会議室3               |                  |  |
| 委 員     | 市 長 堀 口 文 昭                    | 教育委員 佐 野 恵理子     |  |
|         | 教育長 小 橋 秀 生                    | 教育委員 八頭司 めぐみ     |  |
|         | 職務代理者 橋 本 陽 生                  | 教育委員 狩 野 理恵子     |  |
| 事 務 局   | 教育部長 辻 和 彦                     | 教育総務課長 山 中 友 順   |  |
|         | 部付部長 田 中 孝 治                   | 教育総務課長補佐 小 林 聡 美 |  |
|         | 教育部次長 川 中 尚                    | 教育総務課 大 崎 茂 夫    |  |

1. 開 会

・市長あいさつ

2. 議 題

(1) 八幡市の教育について

3. 閉 会



|             | 内 容   |
|-------------|---|
| [ 辻 部 長 ]   | それでは、定刻となりましたので、第1回総合教育会議を開会させていただきます。<br>初めに、堀口市長からご挨拶を申し上げます。   |
| [ 市 長 ]     | 皆さん、ご苦労様でございます。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。<br>総合教育会議は、首長と教育委員会の委員の皆さんが重点的に講ずべき施策等について協議調整を行う場でありまして、教育行政の改革や改正の一環として、教育長の権限強化と両者が教育政策の方向性を共有し、一致して教育行政を進めていく事となっております。昨今は、コロナ禍の中開催できず学校、幼稚園では臨時休校園を余儀なくされ、その後も感染症対策に取り組みながら、学びの保証を行うために現場においては、ご尽力いただきました。緊急事態宣言を批判的に見ますと4月6日に出された時の実行再生産数値を見れば、3月末日の東京の1.7が最高で4月6日では、実行再生産数値がピークアウト（Peak out）した後だと当時の安倍首相は、医療現場の崩壊を防ぐ趣旨の事を当初から仰っておられたので、行政的に言えば担当外ですが今年に入って発令された緊急事態宣言も同じような内容であり、それまでの10ヶ月間何をしてきたのかという事は議論されていません。これはおそらく厚生労働省を含めて昨年10月ごろに大丈夫だと思いき気が緩んだと思います。対策予備費としての10兆円を使用し医療体制の充実を図るべきだったと思います。杉並区では、加感染者指定病院が春先早々に満床になったので、区内の4か所の病院を準公立病院として扱うし2年間の収入を保証する事でコロナ感染患者の受け入れ態勢をとるように依頼しています。しかしながら政府の方針は、全産業において損失補填はしない要請したところだけになっています。厚生労働省と東京都の重症患者の取扱いが違ふとこれは評論家の立場の話で、我々としては、総合教育会議ですので、教育現場の課題や問題点について、それぞれ思う所を議論しより良い八幡市の教育を築きたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いします。 |
| [ 辻 部 長 ]   | ありがとうございました。<br>それでは、これより議題に入りますので、会議の進行役は、市長にお願いいたします。市長、よろしくをお願いいたします。  |
| [ 市 長 ]     | コロナ禍で、司会する機会も殆どなく体も鈍っているように思いますが、ご容赦いただきたいと思っております。<br>この会議は、年2回ですね。第1回の本日の議題は、八幡市の教育について、協議してまいりたいと考えております。今回の総合教育会議の主旨について、川中次長、よろしく申し上げます。   |
| [ 川 中 次 長 ] | (1)八幡市の教育について<br>先ほど市長のお話の中にありました様に総合教育会議とは、市長と教育委員会が教育政策について協議・調整する会議体であり教育の方向性を共有する事が大切だと考えています。本日の議題といたしまして八幡市の教育の全体について自由に発言していただければ良いと思っています。その為の一つ私どもとして話題提供として資料としてあげていますのでご参照ください。<br>総合会議資料1をご覧ください。教育委員会としては、非認知能力について、非常に重要だと考え学校、幼稚園でお話させていただいております。皆さんご承知の通り認知能力とは、知識の量や技能の習熟度など学力テスト検査等により数値で表すのが可能なものです。しかしながら、これからはSociety 5.0（ソサエティ5.0）の時代に向け、知識の量や技能の習熟度とは知識は陳腐化し技術は、次々と盛んに進歩する中で残ってくる力は非認知能力だろうと思います。特に学力の面においても非認知能力、コミュニケーション能力、自尊心、社会性など数値で表す事が困難な力について、どのように高めれば良いのか、そのような視点から自由にご協議いただ  |



ければ私どもの方向性としては、非常にありがたいと考えています。

もう一点目は、G I G Aスクール構想でございます。多額の予算を付けていただき現在システム設定も最終段階に入っており来年度から使用します。公正に個別最適化された部分と郷土的な学習を如何に作り出していくのか協議いただき、当然ICTの部分については光と影がございますので、その辺りについても協議いただければと考えています。総合会議資料2をご覧ください。先ほどの非認知能力、G I G Aスクール構想に関連する当市教委独自アンケートデータを記載していますので、参考にしていただきたいと思えます。総合会議資料3は、八幡市の児童生徒の経年変化を示す折れ線グラフです。平成31年までは、4月収集データですが令和2年からは、受験勉強の関係で11月後半に収集していますのでデータの的には、参考にならないかもしれませんが一定数の子ども達の学習状況で特に中学生の全くしない数値が減少しているのは家庭学習で少しずつ力が付いてきていると感じています。このような資料を参考にさせていただきながら市長と委員の方々に色々語っていただいて八幡市の教育についての方向性について協議していただければと考えているのが本日の趣旨でございます。以上です。

[ 市 長 ]

どうもご苦勞様でした。一点だけ気になるのは、自己肯定感が徐々に下がっている所です。自己肯定感が下がるのは、二つの要因があります。・過去の失敗へのこだわりやトラウマと・他人との比較や劣等感が低下させます。

小中学校では、歴史的な話からすれば肯定から入るべきだと思っています。近現代史の中では、戦後教育で色々な主義主張があります。敗戦の経験から戦争は二度と起こさないという否定から入っています。子ども達の状況から言えば肯定から入っていくべきだと思えます。人権教育で自己肯定感が大事だと言っている人が近現代史の中では否定的です。その前の歴史の流れはどうだったのかについて肯定的な部分は言わないのは、ダブルスタンダードでは、個人的な意味合いから感じています。

僕が今興味を持っている書籍が「日本の教育はダメじゃない」（小松光氏：台湾大学准教授：農学博士、ジェルミー・ラプリー氏：京都大学教育学部准教授）の結論はタイトルの通りで、「日本の教育はダメじゃない」というものですが、誰か読まれましたか。これは、駄目だと言われている日本の教育をめぐる14の通説の徹底検証という事です。その中身は、日本の子ども達や教育環境に係るもので①知識がない②想像力がない③問題解決ができない④学力格差が大きい⑤大人の学力が低い⑥昔に比べて学力が低下⑦勉強のしすぎ⑧高い学力は塾通いのおかげ⑨授業が古くさい⑩勉強に興味がない⑪自分に自信が持てない⑫学校が楽しくない⑬いじめ・不登校・自殺が多い⑭不健康というものです。基本は、P I S A（OECD主導の世界学力調査）とT I M M S S（IEA（国際教育到達度評価学会）が進めている Trends in International Mathematics and Science Study と呼ばれる算数・数学及び理科の到達度に関する国際的な調査）のデータとを基にしている。それを適切に分析して文部行政や政財界や政界、マスコミの誤りを指摘している。結果、日本教育の良さを指摘しているが、いわゆる「日本バンザイ」本とは違う。データの読み込み、分析を述べているだけです。ある程度納得出来る提案もあります。P I S A・T I M M S Sのデータに頼るとずれも出ます。国全体のデータなので短期間の動向や日本の地域別などは読み取れない。そのうえで、文部行政がもっと腰を据えて分析し、施策を出してもらえらるほうが、教育界が、余裕をもって改革を出来ると括っています。学校教育関係の先生が読まれて自信を持たれると良いと思えます。少し余談となりましたが先ほどの川中次長の説明について、橋本委員からご意見をどうぞ。

[ 橋 本 委 員 ]

先ほど非認知能力についてお聞きしましたが、非認知能力とは就学前教育において非常に重視されています。ご承知の通りジェームス・ヘックマンの幼児教育の経済学によって、財政をどこに充てるのが一番効果的かという就学前だという理解をされ



ていると思います。見える学力、見えない学力と昔から言われていますが、見えない学力部分が育ちの中では最も重要な部分です。この部分を教育として構造化し、就学前から小学校、中学校へ繋げる事が重要な時代になっています。私は、非認知能力を育てるのは教育の原点である教師であり、教師の質が物凄く問われているのではないかと思います。ところが新学習指導要領は、総合的な指導を体験等を通じて様々な方法を駆使して育てるため自分の専門教科だけでは駄目で他の教科も併せた統合一致で教育し、尚且つ非認知能力もつけ個人だけじゃなく集団の中で育てなければなりません。この様な事が教師の共通理解や研修の場が重要になると思います。また研究開発という指定事業が非常に重要視されると考えます。是非、このような点に予算を付けていただくなり、人材を派遣し育てていただく場があれば良いと思います。予算には、限りがありG I G A構想との関係で研修等に出席できない場合は、On - The - Job Training (OJT)としてインターネットを通じて研修が出来るような環境が必要だと思っています。

学力の面では、八幡市がナンバー1になれば良いと思います。なかなか難しい問題だと思っています。学力は何かと常に考えていますが、テスト等の結果は、各校が頑張っているにも関わらず、期待される結果が出ないのが現実で非常に難しい課題だと思います。この課題は、家庭学習にある問題が大きいと思います。今回タブレットが一人一台有するとの事で、個に対する格差は正であったり、経済的効果の面で個に対応するプログラムなどを提供すると突破口が開ける可能性があるかも分かりません。先ほどのお話の中で自己肯定感とありましたが、夢や目標を持たず事が非常に重要で夢をもって自分で努力する生活習慣を付けさせる、付けた後は本人次第だと思います。この様なところが教育の一番根底になる重要な部分で、これを作り上げるのが就学前教育から自己肯定感、自立心を育てる事が非認知能力の大切な部分だと思います。私が一つ付け加えさせていただくとすれば、失敗して学ぶ事が弱いのではないかと考えます。失敗して立ち上がる事は、生きる力に繋がる一番大きな部分ですが、失敗を前向きに生かす指導法が重要だと思います。

以上です。

次に、八頭司委員どうぞ。

私は、八幡市で子どもを4人育ててきて巣立った子も居ますし、まだ現在お世話になっている子も居る中で、難しい事は分からないけれど八幡で育ってよかったと思えるような街になってほしいと思いますし、そうなるにはどうすべきか考えると大人が生き生きする事が子ども達も目標を持つ事が出来ると思っています。八幡市も新生児たちにどの様な景色を見せてあげたいかを考慮しながら教育を進めていただきたいと思います。また1年間学校訪問し各校の先生方が、子ども達の事を考え色々工夫され提供されているのを目のあたりにして感動しました。

狩野委員どうぞ。

市長のお話を聞き、今、思った事、感じた事をお話しします。コロナ禍の中オンライン授業（同時配信授業、オンデマンド授業、ブレンド型授業、ハイフレックス授業をいう）がスタートし、少し慌てましたが創意工夫し授業を作り、学生からも評価されました。オンライン授業では、自分が課題に向かって取り組み学ばないといけない部分が多くあり、受講する学生たちも課題を深く調査する学生やオンライン授業を観ず出席だけを目的とした学生もいました。この違いは、幼児期から有るのではないかと私は思います。これからG I G Aスクール構想が始まりますが、これから先生方の運用が始まると仰っています。これからG I G Aスクール構想が進むにつれて、色々な課題が出てくる中で、児童、生徒たちは自分から学ぶ力を養ってほしいと思います。また、非認知能力を育てるのは人という橋本委員からのお話がありましたが、全く同感です。非認知能力を育てる家庭を作る保護者から考えるのも重要だと思います。家

[ 市長 ]

[ 八頭司委員 ]

[ 市長 ]

[ 狩野委員 ]



庭教育の重要性を八幡市においても重要視していただき、就学前から小学校、中学校、高校へ進み、八幡市に住んで良かった、学んで良かったという人を育てる基盤になっていただけたら良いと思いますので、教育における多種多様な施策の実施があれば良いと思います。

以上です

[ 市長 ]

佐野委員どうぞ。

[ 佐野委員 ]

私は、水泳をしています。昨年は、授業もなく教室もなく大会もない1年を過ごしました。コロナ禍の中、過去を見直す機会としては良い1年であったと思います。水泳協会の中でも方向性に変化が出てきています。初心に帰る事から今年度の活動が始まる状況ですが、指導者の志向環境もこのコロナ禍で大きく変化しました。八幡市の教育委員として学校訪問するにあたり、前回の定例教育委員会において新聞記事の中の女子の発言のお話をした後に堀口市長が提唱された徒然草ですが、文章を書く重要性が今回の徒然草の優秀賞を取ら有れた方々の文章が心に響きました。心に響いた作品に巡り合えたのもコロナ禍が少なからず影響していると思います。GIGAスクールにおける端末は、非常に便利なものですが小学生の児童が学校は要らないと思うほど全国の子どもや大人もそう思っている時代の中で文章を創作し書く事の活動を行う八幡市だからこそ八幡市だからやってほしい、八幡市だからやろうとう事を堀口市長を中心に進めていただきたいと思います。私は、障がい者のスポーツにも関わっています。色々な種目がありますが、ゴールボール(goalball)は、目隠しをしながら鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入れる事で得点とする視覚障害者の球技で障害者スポーツの1つとしてあります。(第二次世界大戦の傷痍軍人のリハビリテーションとして考案され、ヨーロッパで盛んに行われている。パラリンピックの正式種目でもある。)物事に集中し書くという動作には似ていると思います。今後、文章を書いたり読んだりする事を八幡市で進めていってもらえるような教育行政としての方向性を出してほしいと思います。

[ 市長 ]

教育長は、如何ですか。

[ 教育長 ]

色々な意見がございましたが、目標と夢を持つとありますが夢を持つとは、どういう事なのか、なりたい自分とは何なのか、なりたい自分を見つけるには世の中の仕組みや仕事の種類の中、自分は何が出来るのかを考えられるようになるには、漠然と育てるのではなく幼少期から目標を持てるように育てる事が年齢と経験を積み重ねる事に目標が明確になってくると思います。幼少期から目標を持てるように育てるには、集中力や忍耐力が必要だと思えます。ITの進歩が速く直ぐ答えが出ますが、本を熟読し考える過程が重要だと思えます。答えを出すには、答えを出す過程の忍耐力と集中力が必要で就学前から少しずつ養う事が将来に繋がると思うので、本を読み理解する地道な作業が忍耐力と集中力を養うのに必要だと思えます。委員の方も仰っていましたが、学びの力を付けるには持続する力を付ける事を授業に取り入れ組みたいと考えています。以上です。

[ 市長 ]

ありがとうございました。

徒然草エッセイ大賞ですが、宇治市は源氏物語で女流文学を打ち出しており八幡市も何かと考えた時、教科書に載っている徒然草を使えば良いと思ひ40周年記念行事として実施しました。山折前選考委員長が日本文学の源流は日記文学だと仰ってたし現代流に言うとも山極選考委員長が仰ったのが、京都で一番美味しいイタリアンの店はA店、じゃあ京都で一番不味いイタリアンの店は、これもA店だと一番不味い店は、誰も聞きません。不味いことは分かっているけれど一番の店と言う問いに相関関係で見ます。これが間違いと言うのは因果関係が分かれば分かります。日記などを付けていればこのような事は防げると思います。この傾向は、新井紀子氏によれば進学校でもそのような傾向があるとされています。結果的に徒然草エッセイ大賞は



ヒット作だと個人的に思っています。徒然草エッセイ大賞は、1,000万円掛かっていますが、一定の効果は有ると思っています。関東の学校でも推薦されていたりしています。当初の目標は、坊ちゃん文学賞のショートショート部門の1,000作品としていましたが徒然草のネームバリューは大きくて最初から2,000作品の応募がありました。教育面から見ると子ども達の教育のベースとなる部分が出る事と家庭教育の面から見ると児童虐待の取り組みで決め手はないので、お母さんが絵本の読み聞かせするツールの一つとしてNPO法人からの提起があったので令和2年度から取り組んでいます。ベースは体験だと思っています。一期目の時に学力観は何かと聞かれた時にヴィゴツキー（ロシアの心理学者レフ・ヴィゴツキー：L. S. Vygotsky, 1896-1934）の\*1 最近接発達領域（ZPD）で、簡単に言えば「可愛い子には旅をさせよ」という事なのですが、簡単に言えば小学校4年生で同じ成績の子を小学校6年生に持ってきた場合、ついていける子とついていけない子が居る。ヴィゴツキーの最近接発達領域では、集団教育の必要性を基礎理論としてロシアでは活用されています。見方を変えると認知能力としての点数は同じでも見えない部分つまり土台として、小学校6年生に授業についていける土台持っている子は、理解できる。小学校5年生の授業なら理解できるが、2年先の授業は理解できない。その部分が最近接と言います。

もう一度言いますが、「日本の教育は駄目じゃない」これは良い本だと思うので一度お読みください。

ありがとうございました。以上をもちまして第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日はごくろうさまでございました。



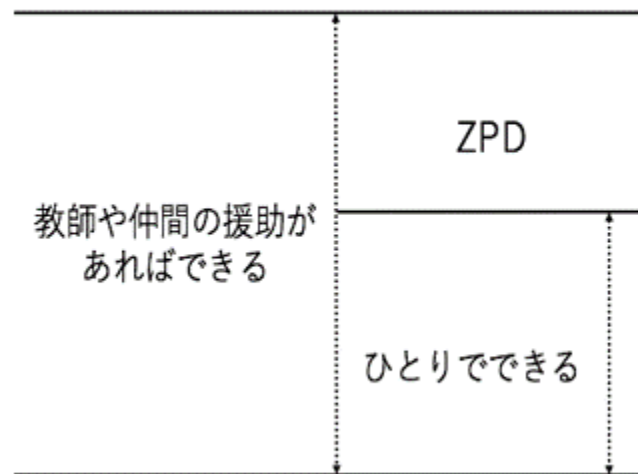
\*1 【最近接発達領域】

ヴィゴツキーの中心的な概念である「最近接発達領域」は、その解釈を巡って様々な議論を生じさせています。この概念は、発達における協同性とそこでの学びと発達との関係を意味する概念であるが、その具体的な内実に関しては明らかになっていない。

ヴィゴツキーは日常的概念と科学的概念の発達に関するピアジェの理論を批判し、教師や仲間の援助を受け入れることが、日常的概念と科学的概念の接続を可能にするための本質としました。

最近接発達領域とは、解釈が複数ありますが「専門家と学習者の問題解決能力の差異」のことであり、教師や仲間の援助を受け入れることにより到達できる能力の領域を指します。

これは、自転車の乗り方を学ぶ子どもを、徐々に自分で乗れるようにしていく、という考え方に例えると理解がしやすいです。





【認知能力】知識の量や技能の習熟度など学力テスト・検査等により、「数値で示すことが可能とされる力」

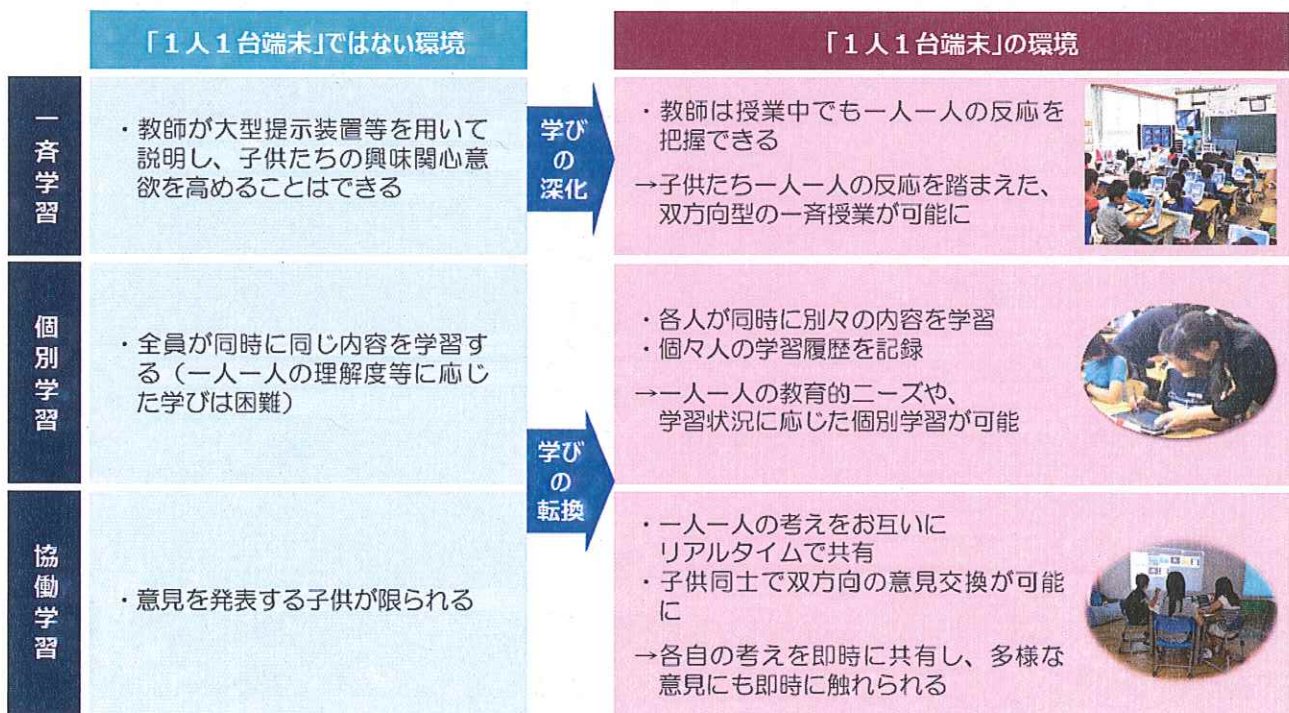
【非認知能力】コミュニケーション能力や自尊心、社会性など「数値で示すことが困難とされる力」

- 例 勤勉性、まじめさ、責任感の強さ  
 開放性、好奇心が強い、想像力、新しいものへの親和性  
 外向性、社交性や活動性、積極性、コミュニケーション能力  
 協調性、利他性や共感性など、仲間と協力して取り組む力  
 精神的安定性、不安や緊張の強さ、自分に対する自信

【GIGAスクール構想】 (GIGA=Global and Innovation Gateway for All)

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。

これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

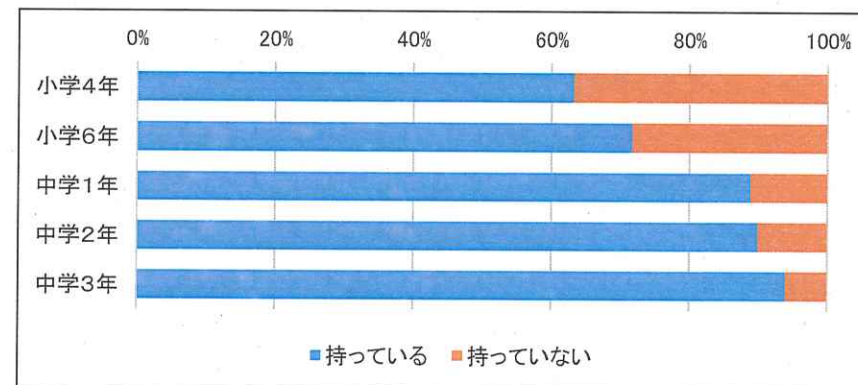




## R2年度市教委独自アンケート

自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っていますか？

|      | 持っている | 持っていない |
|------|-------|--------|
| 小学4年 | 62%   | 36%    |
| 小学6年 | 71%   | 28%    |
| 中学1年 | 88%   | 11%    |
| 中学2年 | 89%   | 10%    |
| 中学3年 | 93%   | 6%     |



携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか？

|      | きちんと守っている | だいたい守っている | あまり守っていない | 守っていない | 持っているが、約束はない | 持っていない |
|------|-----------|-----------|-----------|--------|--------------|--------|
| 小学4年 | 41%       | 14%       | 0%        | 0%     | 11%          | 31%    |
| 小学6年 | 39%       | 23%       | 1%        | 0%     | 11%          | 22%    |
| 中学1年 | 29%       | 34%       | 5%        | 0%     | 18%          | 11%    |
| 中学2年 | 26%       | 32%       | 6%        | 1%     | 22%          | 10%    |
| 中学3年 | 23%       | 32%       | 5%        | 2%     | 29%          | 5%     |

将来の夢や目標を持っていますか？

|      | 持っている | どちらかといえば、当てはまる | どちらかといえば、当てはまらない | 持っていない | 無回答 |
|------|-------|----------------|------------------|--------|-----|
| 小学4年 | 62%   | 19%            | 8%               | 9%     | 0%  |
| 小学6年 | 50%   | 26%            | 10%              | 12%    | 0%  |
| 中学1年 | 36%   | 27%            | 17%              | 18%    | 0%  |
| 中学2年 | 32%   | 28%            | 20%              | 18%    | 0%  |
| 中学3年 | 35%   | 28%            | 17%              | 18%    | 0%  |

